

令和4年第14回教育委員会定例会（秘密会）

開会年月日 令和4年7月22日（金）

場 所 教育委員会室

出席者 教育委員会 教育長 堀 和 夫
同 委 員 岡 田 行 雄
同 委 員 坂 口 節 子
同 委 員 中 田 尚 代
同 委 員 仲 山 英 之

議 題

3 答申

- (1) 小学校特別支援学級調査委員会および中学校特別支援学級調査委員会からの教科用図書に係る答申について

会議に出席した者の職・氏名

教育振興部長	三 浦 康 彰
教育振興部教育総務課長	櫻 井 和 之
同 教育指導課長	山 本 浩 司
同 副参事	風 間 浩 也
こども家庭部長	小 暮 文 夫
こども家庭部子育て支援課長	山 根 由 美 子

- (1) 小学校特別支援学級調査委員会および中学校特別支援学級調査委員会からの教科用図書に係る答申について

教育長

それでは、答申（１）小学校特別支援学級調査委員会および中学校特別支援学級調査委員会からの教科用図書に係る答申について、から始めさせていただきます。

特別支援学級で使用する教科用図書については、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に係る法律施行令第１５条および学校教育法附則第９条の規定により、毎年度、採択替えができることとなっている。このため、本年４月に、特別支援学級教科用図書の採択に係る調査委員会を設置して、調査・検討をお願いした。

それでは、小学校、中学校それぞれの調査委員会の委員長の入室をお願いする。

— 垣崎小学校特別支援学級調査委員会委員長（大泉東小学校校長）、
蓮池中学校特別支援学級調査委員会委員長（光が丘第三中学校校長）入室 —

教育長

それでは、最初に小学校特別支援学級調査委員会の垣崎委員長から、答申の内容についての説明をお願いする。

小学校特別支援学級調査委員会委員長

それでは、小学校特別支援学級教科用図書調査研究について、説明させていただきます。

令和４年４月１５日に教育委員会から諮問を受けた令和５年度使用の特別支援学級用教科用図書の調査研究について、小学校特別支援学級調査委員会は、本日の答申を提出する。

それでは、答申の内容について説明させていただきます。

資料２－１をご覧ください。小学校特別支援学級調査委員会は、特別支援学級を設置している１６校各校に設けられた各校研究会に対し、学校教育法附則第９条に係る図書の研究を依頼した。その後、各校研究会からの報告書等を参考に、６月から２回会議を開催し、慎重に研究・検討を行ってきた。

１ページの別紙１をご覧ください。調査研究を行った図書数になるが、各学校の意向を踏まえ、１６３冊の図書を調査研究した。内訳は、継続の採択候補図書１５７冊、新規の採択候補図書数６冊である。各教科の冊数および図書名の詳細については、５ページ以降に掲載してあるので、後ほどご覧ください。

図書の調査研究にあたっては、各研究校の報告を参考に、児童にとって適切であるかという視点から図書の内容を整理し、調査研究した。

続いて、採択候補図書について説明する。１ページの別紙１を再度ご覧ください。

国語は、（１）、（２）の２冊である。いずれの図書もイラストが分かりやすく、児童が視覚的に覚えられる構成になっている。

算数は、（３）から（５）の３冊である。（３）および（５）の図書については、カードや時計といった教材がセットになっており、児童が体験的に学ぶことができるように編

集されている。また、(4)の図書は、算数や数学を楽しく学ぶための活動がたくさん掲載されており、とても参考になる内容となっている。

最後に、道徳は、(6)の1冊である。子供の気持ちが分かりやすく、どうすべきか、子供たちがみんなで考えるよい教材である。

参考資料として、15ページから、各校研究会の研究報告書をまとめた、令和5年度使用小学校特別支援学級教科用図書研究報告一覧を添付しているので、後ほどご覧いただきたい。

続いて、31ページの別紙2をご覧いただきたい。小学校特別支援学級調査委員会の審議の経過などをお示ししている。

以上で、小学校特別支援学級調査委員会の答申を終わらせていただく。

教育長

ありがとう。

続いて、中学校特別支援学級調査委員会の蓮池委員長から、答申の内容の説明をお願いする。

中学校特別支援学級調査委員会委員長

続いて、中学校特別支援学級教科用図書の調査研究について、ご説明をさせていただきます。

令和4年4月15日に教育委員会から諮問を受けた令和5年度使用の特別支援学級教科用図書の調査研究について、中学校特別支援学級調査委員会は、本日、答申を提出させていただきます。

この答申内容について、ご説明をさせていただきます。

資料2-2をご覧いただきたい。

中学校特別支援学級調査委員会は、特別支援学級を設置している8校各校に設けられた各校研究会に対し、学校教育法附則第9条に係る図書の研究を依頼した。その後、各校研究会からの報告書等を参考に、6月から2回会議を開催し、慎重に研究・検討を行ってきた。

1ページの別紙1をご覧いただきたい。調査研究を行った図書数であるが、各学校の意向を踏まえ、59冊の図書を調査研究した。内訳は、継続の採択候補図書47冊、新規の採択候補図書12冊である。各教科の冊数および図書名等の詳細については、5ページ以降に掲載しているので、後ほどご覧いただきたい。

図書の調査研究にあたっては、各研究校の報告を参考に、生徒にとって適切であるかという視点から、図書の内容を整理し、調査研究した。

続いて、新規採択候補図書について、ご説明する。1ページの別紙1を再度ご覧いただきたい。

国語は、(1)の1冊である。よく活用する四字熟語を言葉とイラストで易しく解説している。コラムもあり、分かりやすくなっている。

書写は、(2)の1冊である。言葉を理解するために、イラストを活用し、視覚に訴え、分かりやすくしている。

社会は、(3)、(4)の2冊である。(3)の図書については、漢字に読み仮名がついて

いて、読みやすくなっており、刑法や少年法、民法などが分かりやすく説明されている。また、(4)の図書は、身近な社会生活の解説を、イラストで分かりやすく説明をしている。

数学は、(5)の1冊である。算数の仕組みの解説が細かく、單元ごとに分かれているので、簡単に振り返りができるようになっている。そして、最後に、演習問題があり、活用しやすくなっている。

理科は(6)、(7)の2冊である。(6)の図書については、楽しいイラストと易しい解説により、引き込まれる内容になっている。また、(7)の図書は、身近な題材を扱っており、写真が多いので、興味を持つことができる。科学を身近なところから考えられる教材になっている。

音楽は、(8)の1冊である。場面に適した歌を選べるよう、目次とは別に、歌の手引が示されており、使用しやすく工夫されている。

美術は、(9)の1冊である。世界各国の名画の見どころや画家にまつわるエピソードも解説されており、深く知りたいと興味を抱かせる内容である。

保健体育は(10)の1冊である。生活の様々な場面での動きのよい例、悪い例が示されており、日常生活の振り返りに活用できるようになっている。

英語は、(11)の1冊である。カラフルで絵も多く見やすくなっている。アルファベットから英文まで載っていて、絵探しの仕掛けもあるので、子供が興味を持ちやすくなっている。

最後に、道徳は、(12)の1冊である。絵が多いので、絵本のように読みやすく、生徒が気楽に本に親しむことができる内容になっている。

参考資料として、11ページから各校研究会の研究項目をまとめた、令和5年度使用中学校特別支援学級教科用図書研究報告一覧を添付しているので、後ほどご覧いただきたい。

続いて、17ページの別紙2をご覧いただきたい。中学校特別支援学級調査委員会の審議の経過などをお示ししている。

以上で、中学校特別支援学級調査委員会の答申の説明を終了させていただく。

教育長

ありがとう。

垣崎委員長ならびに蓮池委員長におかれては、各先生方も含めて、公務ご多忙な折、また短時間であるにも関わらず、研究調査をしていただいたことを改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

皆さんもご承知のことだと思うが、小中学校の特別支援学級の知的障害学級については、採択された教科書を、各学校の判断によって任意に選択することができることとなっており、通常学級の教科書採択と異なり、この会社のこの本をというようなことを教育委員会で指定するものではないため、よろしく願います。

なお、各小中学校の1ページの別紙1に書いてあるものについては、既に採択済みのものについては記載がなく、新たに新規として提案された採択候補のものだけが説明がされているので、それも含めてこの中から選べるということであるため、あらかじめよろし

く願います。

それでは、ただいま各委員長からご報告があったけれども、これについてご質問等があれば、願います。

仲山委員

小学校、中学校双方だと思っただが、昨年度採択した図書の中で、今回調査研究されなかった図書があるようである。何か理由はあるか。

小学校特別支援学級調査委員会委員長

小学校では、前年度の採択数から10冊減になっている。減となった主な理由だが、文部科学省より「辞書は教科用図書としては認められない」という見解が出され、今年度は、辞書を調査研究の対象としていない。小学校では辞書を多く採択していたため、その分減少幅が多くなっている。

中学校特別支援学級調査委員会委員長

中学校では、各学校から調査研究を経たうえで、申請されたものを調査研究の対象としている。科目ごとに増減はあるが、結果的に昨年度の採択と同数の図書を調査研究している。

教育長

それでは、教育指導課長に伺うが、ただいまの小学校特別支援学級調査委員会委員長からのご発言であるが、辞書は無償供与の対象にはならないが、私費によって買うことまで妨げるものでないと理解してよろしいか。

教育指導課長

国語辞典、漢和辞典、英語辞典といった辞書については、教科書としての扱いをなしていないということで、それを除くというような指示があった。

そのため、無償で提供されるものからは除外されるが、一般的な教材として各学校でそれを扱うということは問題ない。

以上である。

教育長

ここに提示されている図書については、特別支援学級の児童生徒が使う分は、国費として支給される。つまり、無償で提供される。ただ、辞書については、国費での対象にならないが、私費で購入することを妨げないということである。

ほかにご質問等はあるか。

岡田委員

先ほどもいくつか教科書を拝見し、その教科の特色に合わせた内容だと思ったのだが、お伺いしたいのは、どのような視点で、これがいい、悪いというふうに教科書をお決めに

なっているのか。

先ほどのお話だと、生徒にとって適切かどうかという視点があるというふうにお話しいただいたのだが、もう少し何か具体的にお話ししていただけることがあったら、お願いしたいと思う。

中学校特別支援学級調査委員会委員長

中学校は3学年生徒が在籍しているのだが、それぞれ一人一人の実態が非常に多様に分かれている。その生徒の実態を見ながら、学級の担任たちが「この図書がこの子たちには合うではないか」というような視点で選択をしている。振り仮名が必要であるとか、あるいはイラストで視覚的に訴えるものであるとか、そういうものを長年の経験と生徒たちの実態を見て選択しているという状態である。

小学校特別支援学級調査委員会委員長

小学校も同じく、1年生から6年生までの子供たちがいるので、一人一人の実態に応じてなるべく教科書が子供に即したものになるよう、それをテーマにして、採択を考えている。

同じ学年でも、子供によって、得意な子と苦手な子がいるので、それを考慮して、教科書を採択するように指導している。

教育長

私からももう少しお伺いしたいのだが、通常ならば、子供8名に教員が1人つく。それで1クラスであるが、8人子供がいたときに、同じ学年であっても、別々の教科書を使うということはやっておられるのか。

小学校特別支援学級調査委員会委員長

本校の例であるが、4人の教員がいるが、学年でクラスをつくっておらず、一人一人の実態に応じてグループをつくっている。その中で同じレベルの子たちに同じ教科書を与えるという指導を行っている。

6年生でも、少し厳しいなという子供もいるし、3年生でもすごく算数が得意な子供もいる。そのため、1年生から6年生までの子供たちを、まずグループ分けして、その子たちにどの教科書が合っているかということを考えて、学級編制をしている。

もし、通常学級と同じように学年で学級を組んでしまうと、とても格差が出てしまうので、そのあたりは、特別支援学級の中で上手に学級を組んで、教科書を与えるようにしている。ただ、そのグループの中でも全部同じ教科書というわけにはなかなかいかないので、2種類、3種類を使うという形を取っている。

中学校特別支援学級調査委員会委員長

中学校でも、やはり学年を基に学習をするのであるが、教科や場面によっては、学年を超えたグループで授業を受けるということも展開をしている。その中で、教科担任が作ったプリントとか独自の教材、そしてさらにこの一般図書を活用して、授業を進めるという

ことをしているのです、基本はそれぞれの実態に合わせた教材を使用し、そこに補助として、一般図書を使わせていただいているという実態がある。

岡田委員

ありがとう。

教育長

ほかにあるか。

坂口委員

特別支援学級の指導の難しさというか、複雑な進め方というのが、先生方のお話でよく分かった。実際に学校訪問したときに、手作りの教材を非常に魅力的に作っている様子も見ていたので、すごくよく分かる。

教科書というのはあくまでもこういうことをやってほしいという願いが込められている。それでも、全く同じではなくて、新しいイラストがあったり、新しい展開があったり、毎年新しい血を注ぐようにして、用意されているのかと思う。

先ほど教科書を見せていただいたときも、自分の体のこととか暮らしに関わることを分かるようにとか、自分の知恵としてほしいとかそういう大人からの願いが込められた新しいフレッシュな感覚を、子供たちに持ってほしいという考えの教科書だと思う。

子供8人に1人の先生ということではなく、マンツーマンだと思うし、教科書はあくまでも願いと、子供が新しい目を開けるためのチャンスになると思っている。本当にたくさんの本を調べていただき、ありがとう。

教育長

ほかにあるか。

中田委員

基本的なことをお聞きしたいのだが、特別支援学級の時間割はどのように組まれているのか。通常学級と同じような時間で授業しているのか。また、教科書として一般図書をどのように活用しているのか、教科書以外の副教材などを別途使うものなのか、もう少し教えていただきたいと思う。

小学校特別支援学級調査委員会委員長

まず、時間割は、基本的に通常学級と同じように組まれている。ただ、本校の例であるが、生活单元といって、いろいろな教科を合わせたような時間がある。生活科だけではなくて、生活に関わることを学ぶ時間である。理科や社会については、この生活单元にはめ込む形で時間割を作っている。

また、今回の図書をどういうふうに関用するかであるが、例えば、国語で説明文があったときに、図鑑などを活用して調べ学習をしたり、または、図工の時間にその図鑑を使って絵を描いたりというように、図書を活用している。

中学校特別支援学級調査委員会委員長

中学校は、本校の例であるが、通常学級と同じような時間割で動いている。授業の展開も9教科同じように行っているが、やはり1つの施設の中で通常学級と特別支援学級等が存在しているため、例えば体育であれば、校庭、体育館、プール等がどうしても確保できないため、2時間続きで体育を行うというように、少し変則的な時程を組む教科もある。

授業については、検定教科書もちろんあるのだが、先ほど申し上げたとおり、一人一人の特性が非常に多岐にわたっているので、一律にその教科書を使用する授業というのはなかなか進められないという実態もある。そのため、担任が教材を独自に作ってそれを基に授業するとか、この一般図書を活用して、その子の実態に応じた授業を実施している。

中田委員

ありがとう。

教育長

ほかにご質問等はあるか。

それでは、教育委員からの質問も終了したので、垣崎委員長と蓮池委員長には退席をしていただく。本当に短い間で、多忙な中ありがとう。

— 垣崎小学校特別支援学級調査委員会委員長（大泉東小学校校長）、
蓮池中学校特別支援学級調査委員会委員長（光が丘第三中学校校長）退室 —

教育長

それでは、ここからは教育委員会としての審議に入る。

見本本が新しい発行分だけであるが各教科1冊あるので、ご覧いただきたいと思う。その後、会議を公開としたうえで、採択を行う。よろしく願います。

— 見本本点検 —